

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 10 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2013～2015

課題番号：25300052

研究課題名(和文)パプアニューギニアにおける社会的新秩序の形成：開発に伴う公共圏の生成に関する研究

研究課題名(英文)Construction of new social order in Papua New Guinea

研究代表者

豊田 由貴夫 (Toyoda, Yukio)

立教大学・観光学部・教授

研究者番号：20197974

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,400,000円

研究成果の概要(和文)：近代社会との接触の歴史が浅いまま独立したパプアニューギニアであるが、近年、「伝統的共同体」に依拠した集団原理とは異なる新たな思想・組織化の動きがローカルレベルで出現しつつある。これらの動きに対して、西洋的な起源を持つ「公共圏」の概念が適用できるかを、地方、都市のそれぞれで住民への調査により考察した。これらの現象はいくつかの点で西洋的な公共圏とは異なる特徴があることがわかったが、これを独自の公共圏とらえてその意味を積極的に示すべきか、あるいは西洋の公共圏とは異なる概念として説明すべきかは、今後の課題となった。

研究成果の概要(英文)：In Papua New Guinea, which has a short history of contact with modern European societies, there appear new social movements and organizations which are not based on traditional communities, but based on new principles. We conducted field research in cities and villages in Papua New Guinea, and tried to verify the hypothesis that these new movements can be explained by the concept of 'public sphere', which originated in Europe. We found that some of the characteristics of these movements are different from those of 'public sphere', and it is not yet clear whether they should be explained by the concept of 'public sphere', or a new concept should be applied.

研究分野：文化人類学

キーワード：パプアニューギニア 公共圏 開発

1. 研究開始当初の背景

近代社会との接触の歴史が浅いまま独立したパプアニューギニアでは、豊富な経済的資源がありながら、その利益を国民に十分配分することができず、近代市民社会への移行が成功していないと言われてきた。しかし、近年の研究では、選挙や開発といった西洋の制度的枠組みを契機として、都市・農村地域ともに「伝統的共同体」に依拠した集団原理とは異なる新たな思想・組織化の原理が出現しつつあり、西洋的な近代市民社会とは異なる社会体制構築の可能性が認められることがわかってきた。これらの動きに対して、西洋起源の概念である「公共圏」の概念が適用できるのかという疑問が研究者間で議論されてきた。近年の「公共性」の議論を単純に援用するならば、パプアニューギニアでは「誰に対しても開かれている、異質な議論を受け入れる」という意味での公共性は、これまで存在していなかった。そしてそのことにより近代的な市民社会が達成できず、そのためパプアニューギニアという国家は様々な社会問題を解決できないのだ、という解釈になる。しかし、都市・地方における上記のような新しい動きを見るならば、そこには伝統的な「共同体」とは異なる集団意識が現れてきており、西洋とは異なる形での「公共性」・「公共圏」が成立する可能性を秘めている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、以上のようなパプアニューギニアにおいて、近年現れつつある新しい社会的な動きや組織を調査することにより、西洋起源である「公共圏」の概念が適用できるのか、あるいは独自の公共性や公共圏というものが成立していると考えるのが適切かを考察することである。この問題に対して、これまで長年にわたりパプアニューギニアの各地でフィールドワークを重ねてきた研究者たちが協働することによって、公共性・公共圏の概念の適用可能性を研究した。

3. 研究の方法

以上の問題を考察するに際して、以下のように、地方（農村部）と都市において新たに出現しつつある社会運動や社会組織を調査した。

第一は、地方（農村部）において出現しつつある新たな集団意識・行動、および組織形成の確認である。特に外部からの開発的介入により、土地その他が資源として認識されている地域を対象として、その新たな集団意識・行動・組織の特徴を明らかにした。

第二は、都市において出現しつつある新たな集団意識・行動・組織の調査である。中流層ならびに「セトルメント」における新たな集団意識・行動の実態を把握することに努めた。

第三は、これら新しい集団組織形成と住民が有する新しい思想・知識との関係について

の調査である。これまで「開発思想」に焦点をあててきた研究代表者たちの研究蓄積から、住民の間で伝統的な自然観・世界観と近代的思想・知識が複雑に絡み合いながら新たな思想・知識が構築されていくことが明らかになってきた。こうした新しい思想・知識が、ここで注目する新たな集団の形成においてどのような機能を果たしているのかを調査した。

4. 研究成果

これらの新しい社会運動や社会組織は、いくつかの点で西洋的な公共圏とは異なる特徴があることがわかった。たとえば、公共とされる空間においても、絶えず血縁・地縁の意識が伴うことが観察された。そこには村落共同体・親族集団・家族・新たな利益集団などの意識が取り込まれ、西洋的な公共圏とは明らかに異質な意識が観察された。

このようにパプアニューギニアにおいては西洋的な公共圏とは明らかに異なる点が見られるが、これを独自の公共圏ととらえてその意味を積極的に示すべきか、あるいは西洋の公共圏とは異なる概念として説明すべきかは、今後の課題となった。

本研究の成果は、パプアニューギニア大学で行われたワークショップで、豊田と熊谷の口頭発表で現地の研究者を相手に示された。また豊田はやはりパプアニューギニア大学で行われたワイガニセミナーで口頭発表を行い、現地研究者との議論を行った。また各研究分担者が英語論文を著し、英語による論文集の刊行が可能になった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 8 件)

紙村 徹、アラペシュ族の口碑から見たパプアニューギニアとインドネシアとの国境貿易 伝統の創造か、それとも文化の発明か?、国際理解、査読無、42、2016、10 - 14

Kumagai, K. Can wantok networks be Counter-publics?: Development and public space in urban Papua New Guinea.

お茶の水地理、査読有、55、2016、51-60

紙村 徹、日本におけるパプア諸語の研究史の覚書、Language and Linguistics in Oceania、査読有、2015、Vol.7,19-28

豊田由貴夫、パプアニューギニアのキリスト教、なじまあ、査読無、第5号、2015、8-9

新本万里子、「女が肩から網袋を下げる」ということ パプアニューギニア・アペラム社会のジェンダーの変化、アジア社会文化研究、査読有、16号、2015、1-24

熊谷圭知、かかわりとしてのフィールドワーク パプアニューギニアでの試行錯

誤の実践から、E-Journal GEO 8-1、査読有、2013、15-33
熊谷圭知、場所論再考 グローバル化時代の他者化を越えた地誌のための覚書、お茶の水地理、査読有、52、2013、1-10
紙村 徹、日本人来訪者の影響 パプアニューギニア東セピック州ワシク丘陵クオマ族トンゲシェンプ村におけるマネー・カルト、天理参考館報、査読無、第26号、2013、37 44

〔学会発表〕(計 11件)

TOYODA, Y., Christianity or traditional culture?: Construction of national identity in Papua New Guinea, Waigani Seminar, 19th, Aug. 2015, University of Papua New Guinea, Port Moresby (Papua New Guinea)

TOYODA, Y., 'People's attitude toward Social Development in Papua New Guinea, Grassroots Development for PNG Future: Japanese Researchers' Views from the long-term fieldwork in PNG, 4th, Aug. 2015, University of Papua New Guinea, Port Moresby (Papua New Guinea)

Kumagai, K., Can wantok networks be Counter-publics?: Development and public space in urban Papua New Guinea. Grassroots Development for PNG Future: Japanese Researchers' Views from the long-term fieldwork in PNG, 4th, Aug. 2015, University of Papua New Guinea, Port Moresby (Papua New Guinea)

TOYODA, Y., Religion from abroad: Christianity in Papua New Guinea, International Workshop by CHS, HCC, Rikkyo University, Maritime Order and Social Integration in Southeast Asia, June 28th 2015, Nanyang Technological University, Nanyang Avenue (Singapore)

新本万里子、月経に対する羞恥心の誕生 パプアニューギニア・アベラム社会における月経処置法の伝承者の変化から、日本文化人類学会第49回研究大会、2015年5月30日、大阪国際交流センター(大阪府大阪市)

熊谷圭知、場所論再々考 ハーヴェイ、マッシーの近著の検討を軸に、日本地理学会春季大会、2015年3月28日、日本大学文理学部(東京都世田谷区)

TOYODA, Y., Melanesian Pidgin and grass roots identity: attitudes towards languages in Papua New Guinea, Pacificism: Die diskursive Konstruktion des Pazifiks Internationale Konferenz, June 7, 8, 2014, 立教大学(東京都豊島区)

新本万里子、病院出産への移行による生

殖観の変容 パプアニューギニア・アベラム社会における出産慣習の変化から、日本文化人類学会、第48回研究大会、2014年5月17日、幕張メッセ国際会議場(千葉県千葉市)

紙村 徹、パプアニューギニアにおけるサゴヤシにまつわる神話、第22回サゴヤシ学会研究大会、2013年6月22日、高知大学農学部(高知県高知市)

新本万里子、パプアニューギニア東セピック州焼畑農耕地帯におけるサゴヤシ利用の特色-低湿地帯におけるサゴヤシの利用に比較して、サゴヤシ学会第22回講演会、2013年6月22日、高知大学物部キャンパス、(高知県高知市)

新本万里子、生理用品の受容によるケガレ観の変容 パプアニューギニア・アベラム社会の事例から、日本文化人類学会第47回研究大会、2013年6月8日、慶応義塾大学(東京都港区)

〔図書〕(計 3件)

紙村 徹、「戦争、紛争あるいは喧嘩についての文化人類学」「対立こそは我が生命：パプアニューギニア、エンガ人の戦争」「喧嘩から戦争へ 戦いの人類誌」、勉誠社、2015、240(15-26、174-187)

紙村 徹、「老女の回春と水潜りの女人 共同体再生の二つのシナリオ：パプアニューギニア東セピック州クオマ族トンゲシェンプ村の神話から」『神話・象徴・儀礼』楽瑯書院、2014、370(179-218)

熊谷圭知、「パプアニューギニア都市における「公共空間」の可能性 ポートモレスビーのセトルメント住民の日常実践から」、柄木田康之・須藤健一編『オセアニアと公共圏 フィールドワークから見た重層性』昭和堂、2013、274(128-148)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6．研究組織

(1)研究代表者

豊田 由貴夫 (TOYODA, Yukio)
立教大学・観光学部・教授
研究者番号：2 0 1 9 7 9 7 4

(2)研究分担者

熊谷 圭知 (KUMAGAI, Keichi)
お茶の水女子大学・人間創成科学研究科・
教授
研究者番号：8 0 1 5 3 3 4 4

川崎 一平 (KAWASAKI, Ippei)
東海大学・海洋学部・教授
研究者番号：1 0 2 5 9 3 7 7

石川 智士 (ISHIKAWA, Satoshi)
総合地球環境学研究所・研究部・准教授
研究者番号：4 0 4 3 3 9 0 8

新本 万里子 (SHINMOTO, Mariko)
広島大学・社会科学部・研究員
研究者番号：6 0 6 3 4 2 1 9

(3)連携研究者

市川 哲 (ICHIKAWA, Tetsu)
名古屋市立大学・人文社会学部・准教授
研究者番号：4 0 4 3 5 5 4 0

(4)研究協力者

紙村 徹 (KAMIMURA, Toru)